

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



7月号 発行 平成28年7月28日

「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」いわき地方推進本部平成28年度総会の開催

7月6日(水)、県いわき合同庁舎において、「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」いわき地方推進本部平成28年度総会を開催し、構成員等26名が出席しました。

「新生運動」とは、本県農林水産業の東日本大震災からの復興を成し遂げるため、生産から流通・消費に至る様々な立場の人々が一体となって推進している運動です。

はじめに、いわき地方推進本部長であるいわき農林事務所森口所長からあいさつがあり、引き続き、議題である平成27年度事業報告及び平成28年度事業計画(案)について事務局から説明を行い、構成員から承認されました。

その後、「農林水産物の風評に係る現況報告と今後の展望について」と題して、米、米以外の農産物、農産物直売所(山菜・キノコ・加工品)、水産物の4つの分野から、(株)相馬屋代表取締役の佐藤守利氏、(株)平果代表取締役専務の鈴木光栄氏、JA福島さくらファーマーズマーケットいがっぺ店長の皆川八三氏、食処くさの根(株)の新谷尚美氏による事例発表及び意見交換を行いました。

事例発表では、「テレビ等で若い芸能人(嵐、AKB48等)が福島米を食べている映像や情報を流すことで、福島県産米を食べるのは当たり前のようなムードを作ることが大事ではないか」、「これからの風評対策として、安心・安全はもちろん、①商品力(数量、品質、棚もち)、②組織力・団結力、③情報力(適切・タイムリーな産地情報)、④機動力(必要な時に必要な物を届ける物流・輸送体制)の確立が重要である。」、「直売所で販売する鮮魚や野菜に関しては震災後5年経過した今でも不安に思っている人が多いと感じる一方、食堂で提供する料理された食材に関してはお客の抵抗は少なく、問題なく提供できている」といった内容が話され、各構成員にとって有意義な会議及び情報交換の場となりました。



(事例発表の様子)

(企画部)

農事組合法人いわき菌床椎茸組合が第65回全国農業コンクール全国大会に出場しました！！

6月30日(木)、大阪市大阪中央公会堂で全国農業コンクール全国大会が開催され、全国から選ばれた20代表による先駆的な農業への取組について発表が行われました。福島県からは2団体が出場し、いわき管内からは農事組合法人いわき菌床椎茸組合が出場しました。

全国農業コンクールは、創意工夫を凝らした栽培技術をもとに卓越した農業経営を展開する先進的、独創的な農業生産者を顕彰するため、毎日新聞社主催で開催しており、今回で65回を数える歴史と伝統のあるコンクールです。

当日は、渡部代表理事が、「大規模・高品質生産への挑戦～椎茸作りを通して震災復興をリード～」と題して、作業のしやすい生産環境づくりや独自の栽培方法によるおいしい椎茸づくりの手法、そして東日本大震災後の販路開拓や6次化商品の開発、今後の意気込み等について発表されました。特に、「お客様」、「お取引様」、そして「私達」の3者の満足度が日本一になるよう新規事業への参入や生産力・ブランド力向上に取り組んでいくという熱い想いを語られました。

審査の結果、農事組合法人いわき菌床椎茸組合は「優秀賞」を受賞されました。同組合では引き続き地域に根ざした、おいしい椎茸づくりに取り組んでいくこととしています。



(発表風景)



優秀賞を受賞したいわき菌床椎茸組合の渡部代表理事(左)と松本専務(右)

(森林林業部)

**第14回治右衛門の堰
「あじさい祭り」施設巡りバスツアーが
開催されました！！**

6月28日（火）、いわき農林事務所が後援する愛谷江筋愛護会（事務局：愛谷堰土地改良区）主催の『第14回治右衛門の堰あじさい祭り～愛谷江筋はどこから流れてくるのかな？～施設めぐりバスツアー』が開催されました。

『愛谷江筋』は、約340年前の江戸時代に三森治右衛門により造られた市内の基幹的な農業用水路で、約300haの田畑を潤しています。このイベントは、地域に根ざした農業水利施設である愛谷江筋の役割や歴史について理解を深めてもらおうと毎年開催されているもので、今年はいわき市立夏井小学校の4年生18名が参加しました。

当日はあいにくの雨でしたが、児童たちは、川から水を取り入れる施設である頭首工や、水路からゴミを取り除く除じん機、水を機械の力で排出する排水ポンプ場などを巡り、農業用水の確保がどのように行われているのかを学びました。初めて見る農業施設に関心を持ったのか、説明を受けている間、懸命にメモを取ったり、積極的に質問をしたりする児童もいました。

また、ツアーの最後には、あじさいの咲く江筋沿いの道を、学校までゴミ拾いをして歩きました。児童達は、今回のツアーを通して農業に対してより深い興味を持ったようでした。



（除じん機を見学する児童たち）



（あじさいを背に集合写真）

（農村整備部）

**新たなふくしまの未来を拓く
園芸振興いわき地方推進会議を
開催しました！！**

6月28日（火）、県いわき合同庁舎において、いわき地方の関係機関・団体で構成する「新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議」を開催しました。

会議では、園芸産地復興計画の重点品目に掲げた「いちご」、「ねぎ」、「日本なし」について、産地維持・発展のための具体的な活動内容に係る積極的な意見交換を行いました。

今年度は、新規生産者の確保に向け、作付け説明会やセミナー等を開催するとともに、生産組織の技術向上を目的とした支援体制の整備を進めることとしました。さらに、生産の安定を図るため、補助事業の積極的な活用を図るとともに、生産組織活動の強化やエコファーマー、GAPの推進、販売促進活動の展開等により、産地発展を目指すことを確認しました。

（農業振興普及部）

**福島県漁業士会総会が
開催されました！！**

7月15日（金）、福島市のホテル福島グリーンパレスにおいて、平成28年度福島県漁業士会総会が開催されました。今年度は新たに3名の漁業士が認定され、指導・青年漁業士を併せて17名が参加し、平成27年度活動実績・収支決算と平成28年度活動計画・予算案について審議・承認されました。なお、この総会には、いわき管内からも指導漁業士2名、OB1名、青年漁業士2名の方が参加しました。

総会の後には、県水産試験場の研究員を講師に招き、「底魚資源の状況」と「ヒラメ栽培事業の再構築に向け」をテーマに学習会を開催しました。



（漁業士会総会の様子）

（水産事務所）

**鳥獣被害対策の一環として、
電気柵等を設置しました！！**

6月24日（金）、県いわき合同庁舎において、市内で発生しているイノシシによる農産物被害を防止するため、市・県・JA等関係機関の連携を確認する「いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議」を開催しました。

また、6月30日（木）には、三和地域の協力を得て、イノシシの侵入防止を実証する電気柵を設置しました。

同地域では定点カメラによる行動観察も併せて行い、農地周辺の除草や山林の下刈りにより「緩衝帯」を設けることで、イノシシが侵入しにくい環境を整備したり、放任果樹の伐採管理等の総合的なほ場管理について、地域の実証農家と相談しながら対策を進めていきます。また、既に電気柵を設置している地域において、設置後も被害が発生する場合には、テスターによる通電効果のチェック等の必要な対策についても、集落に指導していきます。



(電気柵設置状況)



(鳥獣害対策実施集落)
(農業振興普及部)

**ゼロ災で行こう！！
「磐城林業協同組合
平成28年度安全大会」**

7月4日（月）、磐城林業協同組合の平成28年度安全大会がスパリゾートハワイアンズで行われ、構成員である17林業事業体192人が参加しました。

はじめに、平子理事長が「労働災害を防止するためには、トップから安全衛生の担当者、労働者まで全員が現場を確認し、一人ひとりが安全に関する意識や危険感受性を高めることにより、労働災害ゼロを目指していく必要がある。今回の大会を契機に意識を高めてもらいたい。」と挨拶がありました。

続いて、吉野正芳衆議員議員ほか来賓祝辞の後、いわき労働基準監督署副署長による「林業の安全」に関する講話、磐城林業協同組合造林安全委員長及び伐出安全委員長から造林・伐出作業時の注意事項、いわき中央警察署警部補による「交通安全」に関する講話があり、最後に参加者全員による「労働災害防止・安全作業の誓い」が行われ、大会は終了しました。

本年の林業労働災害発生状況（福島労働局管内）は、6月末現在で昨年より7件多い23件となっており、昨年同時期より多発しております。今後、熱中症や蜂刺され事故が頻発する時期となることから、始業前の作業方法確認、危険予知活動等の徹底を図るなど、組合員の皆様には、今回の大会を契機に安全意識の高揚と安全作業に、より一層努めていただきたいと思っております。



(安全大会の様子)
(森林林業部)

ふくしま農業フェアが 開催されました！！

7月8日（金）～9日（土）の2日間、いわき市四倉町にあるワンダーファームにおいて、「ふくしま農業フェア in ワンダーファーム『ふくしまプライド。』を胸に」が開催されました。

本フェアは、いわき6次化協議会、Cool Agri、福島魁（さきがけ）プロジェクトの主催によるもので、原発事故の影響で風評被害を受けた本県の農産物の魅力やおいしさ、生産者の熱い思いを県内外に知ってもらおうと、今回初めて開かれたものです。

セレモニーでは、(株)ワンダーファームの元木寛社長が「ふくしまプライドの下に集まった皆さんの力で、福島の農業を広く発信していきたい」とあいさつされました。

会場では主催3団体がブースを設け、県産の農畜産物や6次化商品などを販売しました。

今回のフェアを機に本県の風評払拭に向けた活動がさらに活発化することが期待されます。



(株)ワンダーファームの元木社長（左）と主催3団体



(ブースでの販売の様子)

(企画部)

試験操業の状況

(1) 高値が続くウニ貝焼き

5月19日（木）から販売が開始された今年のウニの貝焼きは、7月13日（水）までに計542個にのぼりました。貝焼き1個の価格は初回の販売で平均4,429円と非常に高値で取引されました。その後6月上旬までは2,000円台後半で落ち着いていましたが、6月中旬以降再び値上がりし、最近では3,500円台で推移しています。

高値で取引されるのは非常に良いことなのですが、需要に供給が追いついていないことの表れでもあるので、今後の試験操業拡大が強く望まれます。



(入札の様子（いわき市中央卸売市場）)

(2) 底びき網の漁獲量について

底びき網は7～8月が禁漁にあたるため、水揚げは6月末で一旦終了となりました。今漁期（平成27年9月～28年6月）の総漁獲量は166トン、出漁延べ隻数は1,199隻で、前漁期の68トン、432隻を大きく上回りました。これは、平成27年9月から10トン未満の小型底びき網漁船が試験操業に参加し、28年4月から週2回操業に移行したためです。次漁期には沿岸漁業の主要魚種であるヒラメ、マアナゴが試験操業対象魚種に加わる予定のため、更なる漁獲量の増加が期待されます。



小名浜魚市場での底びき網水揚げ

(水産事務所)

交通安全への取り組みについて

いわき農林事務所では、交通安全への取り組みとして、事務所独自で作成した「宣誓書」の月1回の読み上げや「ドライバー総参加セーフティチャレンジ」へ積極的に参加しています。

宣 誓 書

わたしは、全体の奉仕者として、また、一県民として、これからも、交通ルールを守り、交通事故防止に取り組むことを誓います。

特に、反社会的な行為である飲酒運転は、絶対にしないことを固く誓います。

(標語)

い 急ぐとも 守れスピード 車間距離
 わ 脇見運転 その一瞬が 命とり
 き 気をつけよう 慣れた車と 慣れた道
 の 「飲んだら乗らない！」 常識です
 う 運転中 あってはならない マアいいか
 りん 林道でも 危険は同じ 気を抜くな！
 じ 事故で泣く あなたも家族も 被害者も
 む 無理しない 用心深さも 年の功
 しょ 所を挙げて 交通安全 取り組みます

(総務部)

コンプライアンス研修会を開催しました

6月21日(火)・22日(水)、所属職員の法令順守の意識向上を図るため、コンプライアンス研修会を開催しました。

研修会では、全職員が参加し、公務員の不祥事(犯罪・交通事故)防止に関するDVDを視聴することにより、法令順守についての知識・理解を深めました。

(総務部)



メンタルヘルス講習会を開催しました

6月29日(水)、所属職員の健康障害の防止を図るため、メンタルヘルス講習会を開催しました。

講習会では、「職場のメンタルヘルス」と題して、県福利厚生室の秋山主任保健技師より講演をいただきました。受講者は、職場におけるストレスの要因・反応を正しく理解し、その適切な対応方法について学ぶことができ、「ストレスとのつきあい方が理解できた。」「今後活かせる内容だった。」等の感想も寄せられました。



(メンタルヘルス講習会受講状況)

(総務部)

「いわき農林事務所健康だより」を発刊しました

7月4日(月)、職員の健康の保持推進を図るため、「いわき農林事務所健康だより」を初めて発刊しました。

今回は、これからの季節に注意を要する熱中症の予防と対処方法、及び定期健康診断結果で基準値超の職員が多かった項目「悪玉コレステロール」を取り上げ、注意喚起を図りました。

これからも、職員の健康障害の防止やワークライフバランスの向上のため、情報を発信していく予定です。

1 熱中症について

例年のことですが、毎年死傷者が発生している状況にあります。いわき市内でも既に熱中症による搬送の報告があります。また、昨年は死亡事故も発生しました。

除草作業中の46歳男性死亡 熱中症の可能性
(平成27年8月4日)

県は4日、いわき市の農道小名浜小野緑で除草作業をしていた作業員男性(46)が体調不良を訴え、搬送先の病院で死亡したと発表しました。県は死因や詳しい状況を調査しているが、熱中症で死亡した可能性もあるとみている。

県によると、男性は同日朝から、道路の除草作業をしており、昼休みを挟んだ午後2時ごろ、体調不良を訴えた。男性は水を飲み日陰で休んでいたが、同3時ごろに昏倒したという。

いわき建設事務所は同日午後3時5分ごろ、農道から連絡が入った。現場の担当者は、男性が「休んでいいは大丈夫」と言っていたため、救急車を呼ばなかったとしている。

福島民友新聞

については、今一度対策の徹底はもとより、症状を感じたらすぐ医師の診断を受けるようにしてください。また、予防に加え、熱中症にかかった後の対処方法も検討するようお願いいたします。

(発刊されたいわき農林事務所健康だより)

(総務部)

**いわき地方の農林水産物
モニタリング検査結果**

農林畜産物の検査結果

福島県が行った、いわき地方の6月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果(表1)をお知らせします。

(表1)農林畜産物の検査結果(6月末現在)

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
9品目 18検体	2品目(※1)			11品目 21検体
	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超で検出された検体	
	1検体	2検体	0検体	

※1：うわばみそう(野生)、もみじがさ(しどけ)(野生)

検査した11品目21検体のうち、9品目18検体において、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。

内訳は(表2)のとおりです。

(表2)1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

菌床しいたけ(施設) 4、菌床なめこ(施設) 2、ウメ 2、はちみつ 1、タマネギ 1、ブルーベリー 1、ポイセンベリー 1、牛肉 2、原乳 4
--

なお、うわばみそう(野生)、もみじがさ(しどけ)(野生)については、それぞれ1検体に100ベクレル/kg以下の放射性セシウムが検出されました。

内訳は(表3)のとおりです。

(表3)基準値内で検出された品目と検体数

品目	検体数	内訳	
		100ベクレル以下	検出限界値以下
うわばみそう(野生)	2	1(4.0ベクレル/kg)	1
もみじがさ(しどけ)(野生)	1	1(28ベクレル/kg)	0

6月末現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、(表4)のとおりです。

(表4)出荷制限および出荷自粛品目(6月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限(7品目)	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、こしあぶら、たらめ(野生のものに限る)
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
畜産物	—	
出荷自粛(1品目)	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

(企画部)

海産魚介類の検査結果

○ 福島県沖で採取された海産魚介類の放射性セシウム濃度は、時間の経過とともに着実に低下しています。

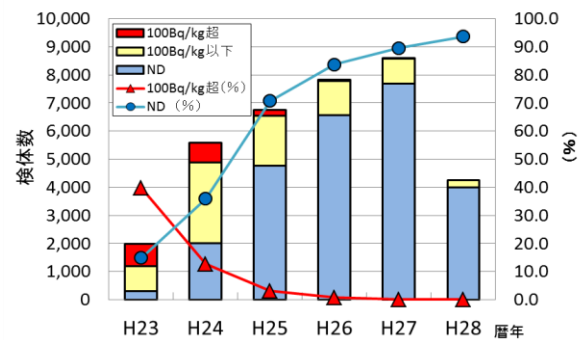
平成27年4月から平成28年6月に実施した海産魚介類の放射性物質モニタリング検査結果で、基準値100Bq/kgを超えたものではありません。

○ 平成27年7月以降、放射性物質モニタリング検査で、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下の割合は9割を超えています。現在は安全性が確認されている魚介類73種類について試験操業が行われています。なお、平成28年6月9日に国によるヒラメ・アナゴの出荷制限指示が解除されました。

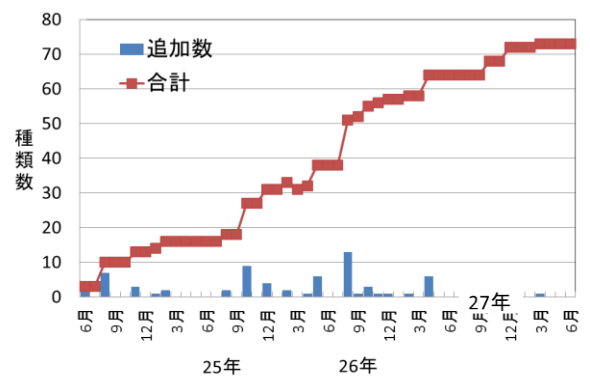
モニタリング検体数と放射性セシウム検出の割合

年		100Bq/kg超	100Bq/kg以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合(%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合(%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合(%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合(%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	896	7,677	8,577
	割合(%)	0.05	10.4	89.5	100.0
H28	検体数	0	271	3,984	4,255
	割合(%)	0.00	6.4	93.6	100.0
計	検体数	2,065	7,966	26,716	36,747
	割合(%)	5.6	21.7	72.7	100.0

H28.6.30現在



試験操業対象種の推移



(水産事務所)



いわきの情報をお知らせします！



「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された6次化商品をご紹介します！

Vol.3

今回は「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」(平成28年3月版)に掲載されている商品の中から大和田自然農園の「久保姫の里 ブルーベリードリンク」をご紹介します。

「久保姫の里 ブルーベリードリンク」は、いわき市産のブルーベリーを凝縮したこだわりの一品です。

大和田自然農園の大和田智恵子さんは「久保姫の里 ブルーベリードリンクは、農園で収穫したブルーベリーを他品種とミックスすることなく、ホームベルという甘い味が特徴の品種のみを使用しています。」と話してくれました。

「久保姫の里 ブルーベリードリンク」は、農園で購入することができます。これから旬を迎えるブルーベリー、この機会に是非丹精込めて作られた一品をご賞味ください。



「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」は「ふくしま6次化情報STATION(<http://6jika.com/>)」に掲載されていますので、是非ご覧下さい。

情報提供

福島県いわき農林事務所

いわき市平字梅本15番地(福島県いわき合同庁舎3F)
TEL.0246-24-6197 FAX.0246-24-6196
mail kikaku.af07@pref.fukushima.lg.jp
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>

【大和田自然農園】
●いわき市好間町北好間字山崎44
●TEL.0246-36-2591
●【WEB】<https://www.facebook.com/berryfarmiwaki/>

いわき農林事務所 検索

H28年度キャッチフレーズの紹介

いわき農林事務所では、各部の代表1名によるキャッチフレーズ選定委員会から、今年度のキャッチフレーズの提言を受け、職員全員の人気投票によりキャッチフレーズを決定しました。

このキャッチフレーズは、「燦々と降り注ぐいわきの太陽の光のように、農林業に携わるすべての人に、一日でも早く真の笑顔があふれるよう、所員が一丸となってスピード感と緊張感を持って目に見える成果を求めていく」という思いを込めています。

福島県いわき農林事務所(平成28年度キャッチフレーズ)

いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1) モニタリング情報検索
 - (2) 出荷制限等一覧表

「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



[いわき農林水産ニュース](#)